

— 気象講座雑感 —

第25回気象講座「新しい気象」雑感

日本気象協会北海道支社 中田 琢志

第25回気象講座「新しい気象」は、去る7月31、8月1日に開催され、初日、2日目とも各31名の受講者に参加いただきました。

今年度も、熱心な受講者に恵まれ、講師への質問が例年にも増して多く、盛況のうちに無事終了しました。

1日目は、札幌市青少年科学館で「森林と気候のかかわり」（講師：北海道大学低温科学研究所教授 渡辺 力氏）、「雪は「天からの手紙」か？」（講師：北海道教育大学岩見沢校教授 油川英明氏）の講義と館内見学を行いました。

渡辺講師は、地球上で赤道を挟んで輪切り状の気候区分が形成される理由から説き起こし、森林と気候のかかわりについてわかりやすく説明されました。世界中で多くの研究者が森林気象観測のデータベースを作成して成果を共有しているとのことでした。森林伐採が取り返しのつかない気候変動につながる可能性があることも説明されました。

油川講師は、韓嬰（前漢）の「漢詩外伝」の「六出」の記述から説き起こし、なじみのある雪結晶マークについてその由来を紹介し、野外での雪結晶の撮影法上の工夫について説明されました。また、雪結晶には表と裏があること、天然の雪結晶の形や成長速度を説明するためには、過冷却水滴（雲粒）からの成長という、室内での人工雪とは異なる自説の成長メカニズムについて、多くの実験と観測結果を示しながら解説されました。

2日目は、札幌管区气象台で「知って得する天気のはなし～天気予報で病も攻略!?～」(講師：日本気象協会北海道支社 北原宏之氏)、「地震情報の最先端—緊急地震速報—」(講師：札幌管区气象台 阿南恒明氏)の講義を行いました。

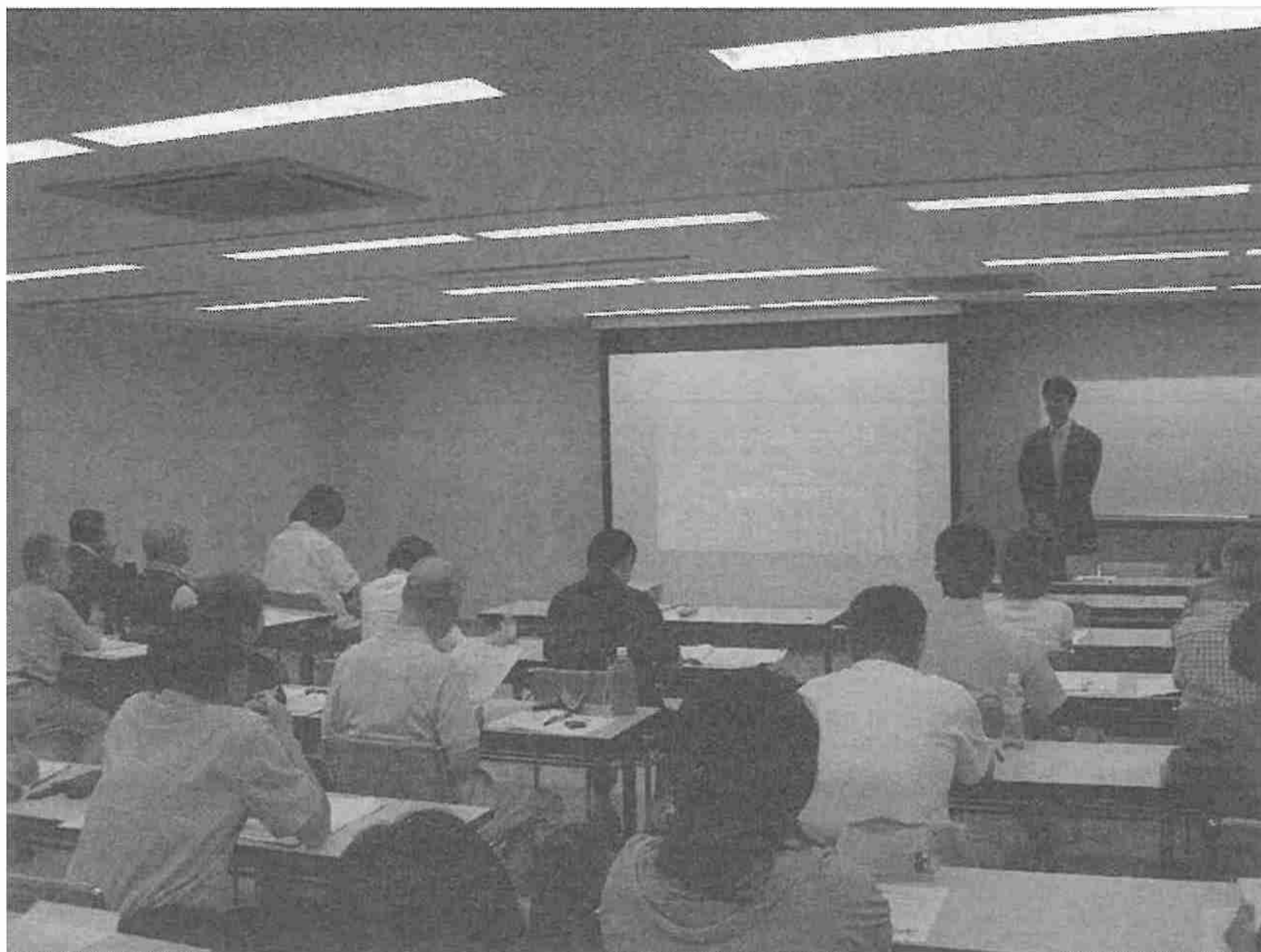
北原講師は、低気圧の接近といった気象条件が人間の体調に影響を与えている問題をはじめ、気象に関する様々な話題や、気象情報の活用方法について説明されました。気象の諺が実は気象が健康に影響を与えていることを教える生活の知恵であること、雨と風の生活への影響などについて、わかりやすい絵で解説していただき、受講者からの質問攻めにあっていました。

阿南講師は、地震を起こすメカニズムについての基礎的解説から始まり、今年10月にスタートする緊急地震速報についてわかりやすい動画を交えて紹介されました。これは、地震発生をすばやく感知し、数～十数秒後の地震波到達を知らせるものです。使い方を誤るとパニックを引き起こし逆効果となるので、とっさのときの対応を常日頃から考えておくことの重要性を述べられました。

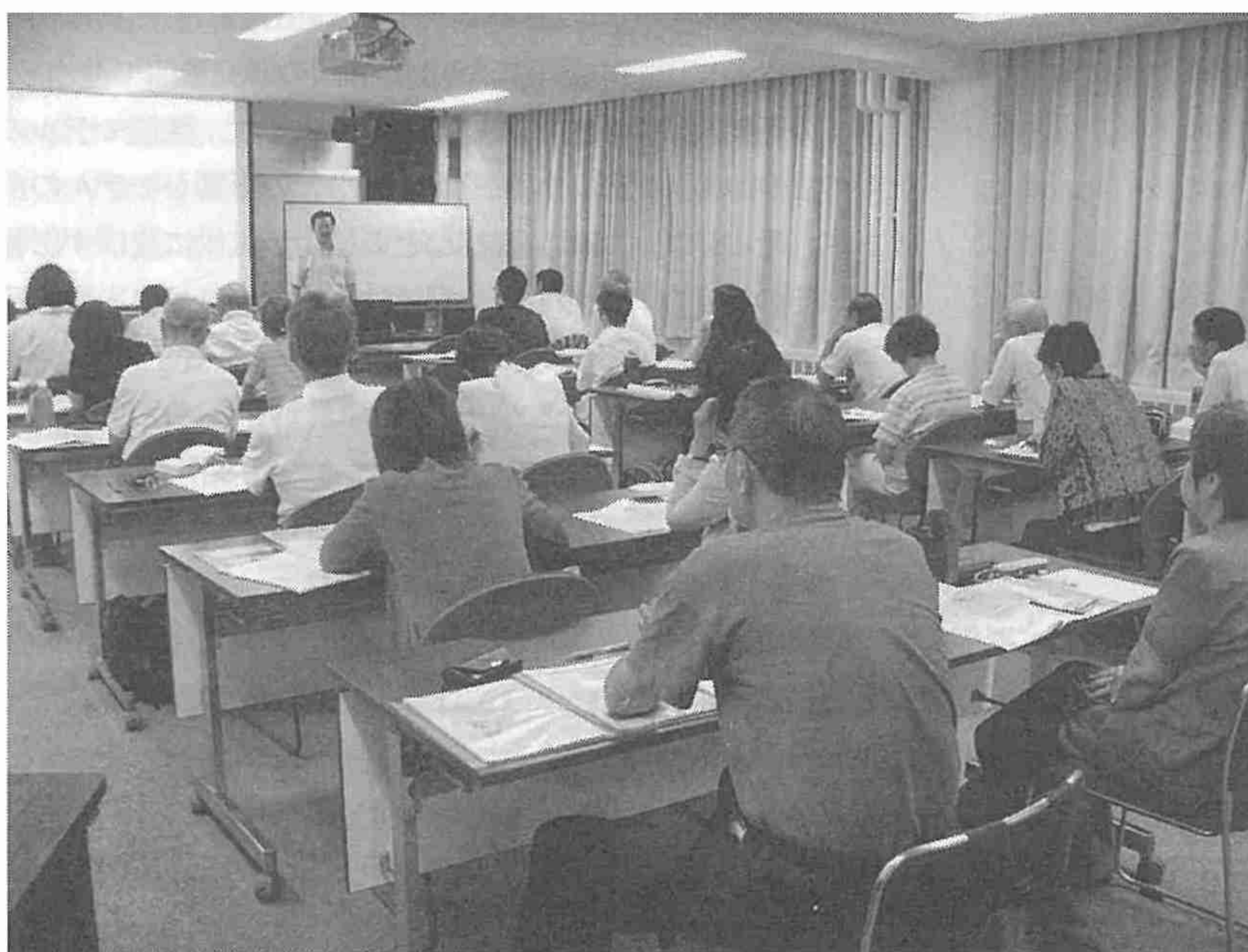
今後、なるべく多くの方々にご参加いただき、最新の気象情報を生活に役立ていただければと考えています。

なお、参加者アンケートによる受講回数は下記の通りでした。

回数	初めて	2回	3回	4～10回	11回以上	回答数
回答	17	4	1	7	1 (22回)	30



受講風景（札幌市青少年科学館）



受講風景（札幌管区气象台）